

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	中国NGOの自治性と機能性：GONGOからState-Led NGOsへ
Title(English)	Autonomy and Functionality of Chinese NGOs: From GONGOs to State-Led NGOs
著者(和文)	原嘉志
Author(English)	Hiroshi Hara
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11233号, 授与年月日:2019年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:坂野 達郎,猪原 健弘,池上 雅子,劉 岸偉,村山 武彦
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11233号, Conferred date:2019/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	原 嘉志
		氏 名	職 名	氏 名 職 名
論文審査 審査員	主査	坂野 達郎	教授	村山 武彦 教授
	審査員	猪原 健弘	教授	
		池上 雅子	教授	
		劉 岸偉	教授	

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は「Autonomy and Functionality of Chinese NGOs: from GONGOs to State-Led NGOs」と題し、序章及び終章を含め6章からなっている。

序章では、論文の背景、目的、及び構成を提示している。1979 年以降、中国の社会と制度は改革開放政策のもと大きな変貌をとげている。財の供給を政府に全面的に依存する体制から、私的セクターへの依存度を高める体制への移行にともなう、公共サービス供給におけるニーズのミスマッチが社会問題となっている。このような背景から、中国においても政府と市場の機能不全を補う NGO への期待が高まりつつある。しかし、中国の政治体制は西欧自由民主主義体制とは異なるため、後者において構築されてきた NGO の理論をそのまま適用することはできず、権威主義的体制において有効な NGO の理論を構築し、同理論をもとにして発展戦略を立てることが重要であると述べている。

Ch.1 Theoretical Proposal of Granted Autonomy: Framework on Civil Society in General and Particularly in China では、中国 NGO に関する既存理論を自立性と機能性の観点から比較検討している。その結果、既存理論は、Western Associational Theory と Corporatist Theory に分類できること、前者は完全な自立性 (Full Autonomy) を求める点で中国の現行政治体制下においては現実性に乏しいこと、後者は、自立性が制限されたとしても政府との関係を深めることで機能性を発揮できると主張する点で問題があると指摘している。その上で、権威主義的体制下において自立性と機能性を同時に発揮するための条件として、認可された自立性 (Granted Autonomy) を提案している。

Ch.2 State of Social Organizations in China: Typologies of Chinese NGOs では、民政部 (Ministry of Civil Affairs) の資料及び M. Wang の研究をもとに、1990 年台から発達してきた NGO を概括し、その類型化を行っている。その結果、M. Wang による中国 NGO の 15 類型は、GONGOs、PNEU (Private Non-Enterprise Unit)、Grassroots NGOs の 3 類型にまとめることができることを示している。また、中国の NGO は二重の管理制度による統制が行われているために、完全な自立性を発揮することは困難であるものの、自立性の程度、および自立性と機能性の関係性については多様性があるため、両者の関係について実証的再検討を行うことが必要であると論じている。

Ch.3 Trade-Off between Autonomy and Institutional Performance: Transformation of Grassroots NGOs in China では、Gansu Province 及び Henan Province で行った Grassroots 型の環境 NGO の事例研究に基づき、NGO の自立性と機能性が、政府との距離が近くなることによってどのように変質するのか明らかにしている。Grassroots NGO は、経営基盤の拡大と安定を求めて公的認定を目指すものが多い。従来の研究では、公式に NGO 認定されると自立性が制限されるために機能が失われる、いわゆる GONGO 化が起きると論じられてきた。これに対し、本論文で研究対象にした 2 事例では、人事的な独立性が維持されていること、さらに、戦略・起業レベルの自立性は制約を受けるものの、経営管理レベル、及び業務管理レベルの自立性については保たれ続けていることを明らかにしている。

Ch.4 Pushing the Boundaries of Autonomy and Functionality: Emergence of Stat-Led NGOs では、Guincheng Sub-District における NGO インキューションセンターの事例研究を行い、従来の研究では確認されて来なかったタイプの NGO の存在を明らかにし、これを State-Led NGO と命名している。同 NGO の成長過程をインタビュー調査にもとづき補足、検討し、自立性を政府が認可することによって、従来型の NGO に比較してより高い自立性と機能性を同時に達成しうることを明らかにしている。

終章では、各章の議論をまとめ、結論および今後の課題を論じている。

以上要するに、本論文は、中国における NGO を発展させる上で認可された自立性の有効性を明らかにしたもので、公共システム設計への貢献が大きい。よって、博士 (工学) に値するものと認める。